

み、義を積ずして性を養ふことは、聖人の道にはなき事なりと、常に示し給へり、

〔書言字考節用集八〕言八柔ウカフ和ワカフ

〔續日本後紀十三〕承和十年九月辛丑、正三位藤原朝臣愛發薨略。中爲人和。柔不妄發忿、在於政塗、許爲通熟。

〔日本後紀二十一〕弘仁二年四月丙戌、宮内卿正三位藤原朝臣雄友薨略。中雄友性温、和不喜怒、姿儀可觀。

〔日本後紀二十二〕弘仁三年十月辛卯、右大臣從二位藤原朝臣內麻呂薨略。中內麻呂者略。中奕世相家、少有令望、德量温雅。士庶悅服。略中任兼相將、經事三主、皆被信重、上有所問、不希指苟合、如或不從、不敢犯顏、凡典樞機、十有餘年、靡有愆失。

〔今昔物語十五〕容桓聖人母尼釋妙往生語第四十

今昔容桓ト云フ聖人有ケリ、其ノ母若ヨリ心柔。奕正直ニシテ、人ヲ哀ミ生類ヲ悲ブ心深カリケリ。

〔平家物語六〕こうえうの事

むげに此君倉。高は、いまだよう主の御時より、せいをにうわにうけさせおはします。

〔先哲叢談後編五〕元淡淵

淡淵及二十歲比、身長六尺、手垂過膝、資性温和、動止續重、自有高貴、府文學本蘭臯、名希聲、字實聞稱云、亮節威望、足以敦天下之鄙。

〔先哲叢談續編六〕伊藤竹里

竹里在赤羽邸舍、繼述家學、教授徒弟、與服南郭居、僅隔赤羽小流、北岸南畔、不甚相遠、南郭以護社之高足、雄視一世、有得其許可者、人皆信其言、南郭一見、知竹里之爲人、稱爲温厚長者。